

青森県脳卒中医療状況調査結果【令和6年分】



青森県・弘前大学医学部附属病院
脳卒中・心臓病等総合支援センター
公式キャラクター

1 目的

脳卒中急性期医療対策を検討するにあたり、本県の脳卒中患者の状況（救急搬送、転院搬送、治療内容等）を把握するものであり、平成21年度から実施。（現在の調査内容では平成30年分から）

2 調査対象

- (1) 県内各消防本部 11か所
- (2) 医療機関 11か所
（青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院（※R2から追加）、弘前大学医学部附属病院、弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、黒石市国保黒石病院、八戸市立市民病院、八戸赤十字病院、つがる総合病院、十和田市立中央病院、むつ総合病院）

3 調査対象期間

令和6年1月1日～令和6年12月31日

4 調査項目

- (1) 消防本部
 - ア 救急搬送状況調査（市町村別脳血管疾患別搬送内訳数）
 - イ 転院搬送状況調査（市町村別脳血管疾患別搬送内訳数）
- (2) 医療機関
 - ア 脳卒中の入院治療件数と処置内訳（療法別内訳）
 - イ 急性期脳卒中患者（症状に気付いてから7日以内の入院患者）の状況
 - (ア) 脳卒中発症前の高血圧既往状況
 - (イ) 脳卒中発症時の心房細動合併状況
 - ウ 脳卒中患者の急性期病院退院時mRS
 - (ア) 急性期から回復期移行時
 - (イ) 急性期から維持期移行時
 - (ウ) 急性期病院入院中の死亡
 - エ 脳卒中患者の急性期から回復期を経由して維持期に移行した時点の転帰について（弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院のみ）

5 調査結果

(1) 救急搬送状況

図1 救急搬送件数の推移（県全体）

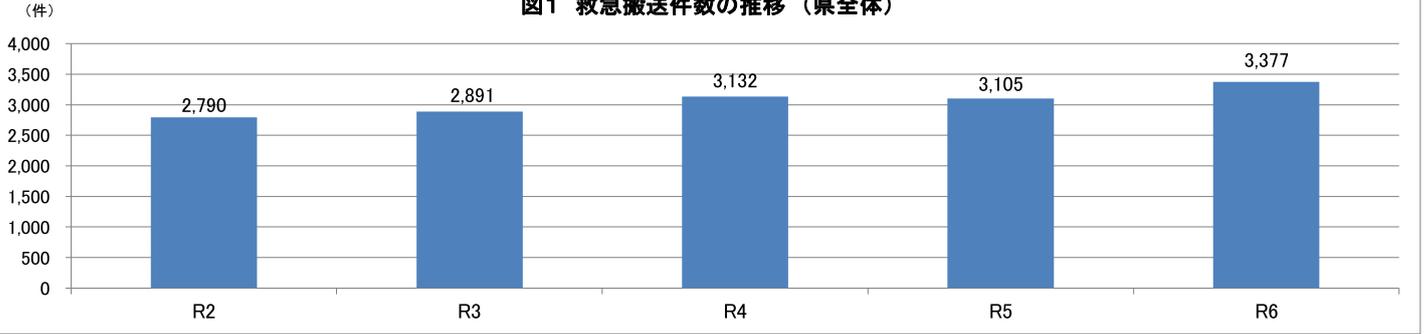


図2 救急搬送件数の推移（圏域別）

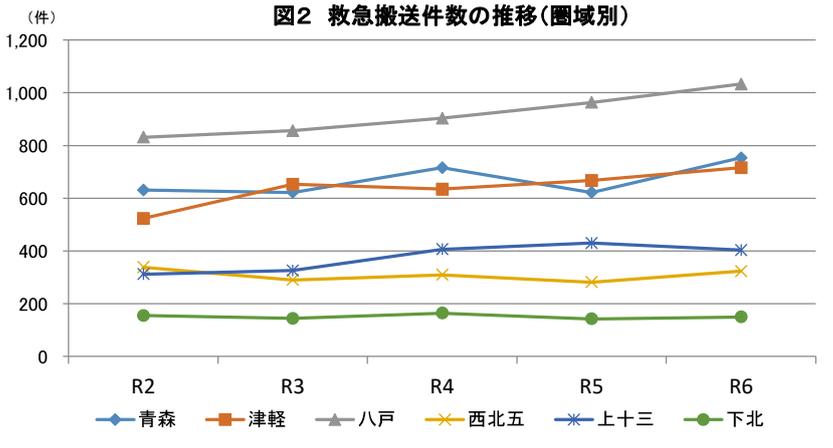


表1 救急搬送件数の推移（圏域別）

	R2	R3	R4	R5	R6
青森	631	622	716	622	753
津軽	523	653	634	667	716
八戸	831	856	903	963	1033
西北五	338	290	309	281	323
上十三	312	326	406	430	403
下北	155	144	164	142	149
合計	2,790	2,891	3,132	3,105	3,377

3

図3 疾患別救急搬送件数

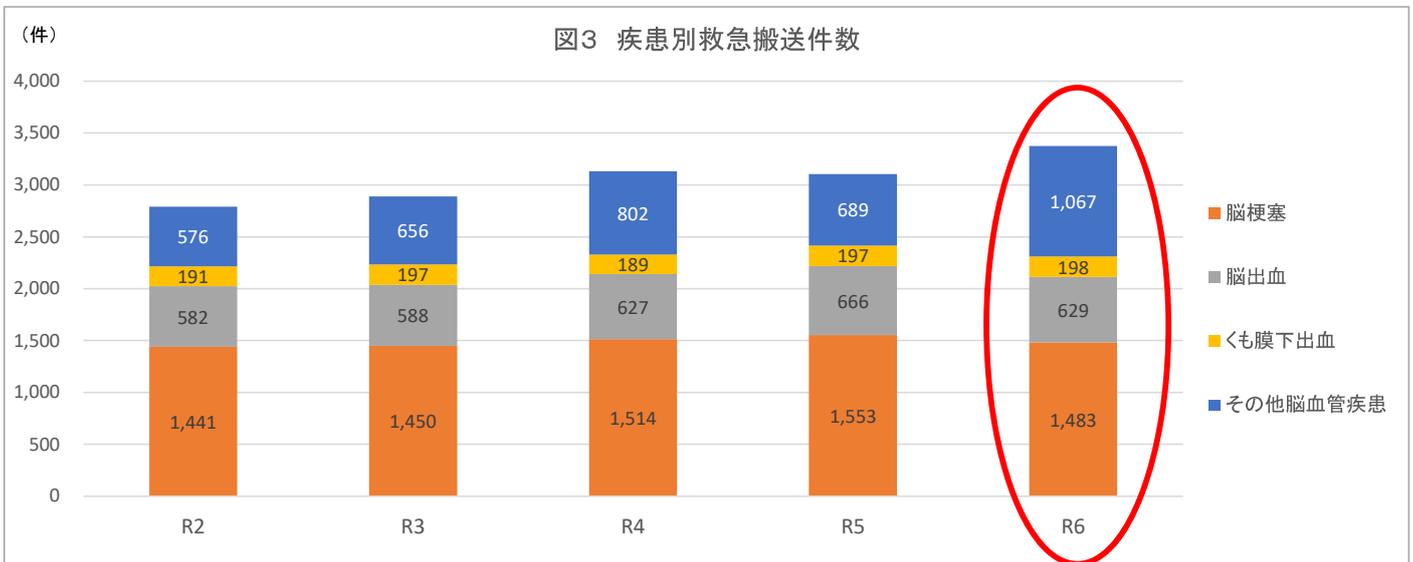


表2 疾患別・圏域別救急搬送件数(R6)

	青森	津軽	八戸	西北五	上十三	下北
脳梗塞	376	232	463	156	177	79
脳出血	155	91	190	60	93	40
くも膜下出血	46	29	60	15	36	12
その他脳血管疾患	176	364	320	92	97	18
総計	753	716	1033	323	403	149

4

(2) 転院搬送状況

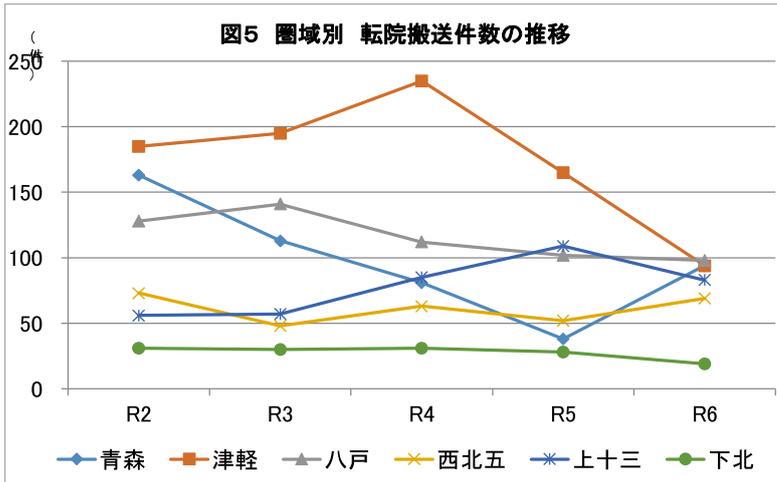
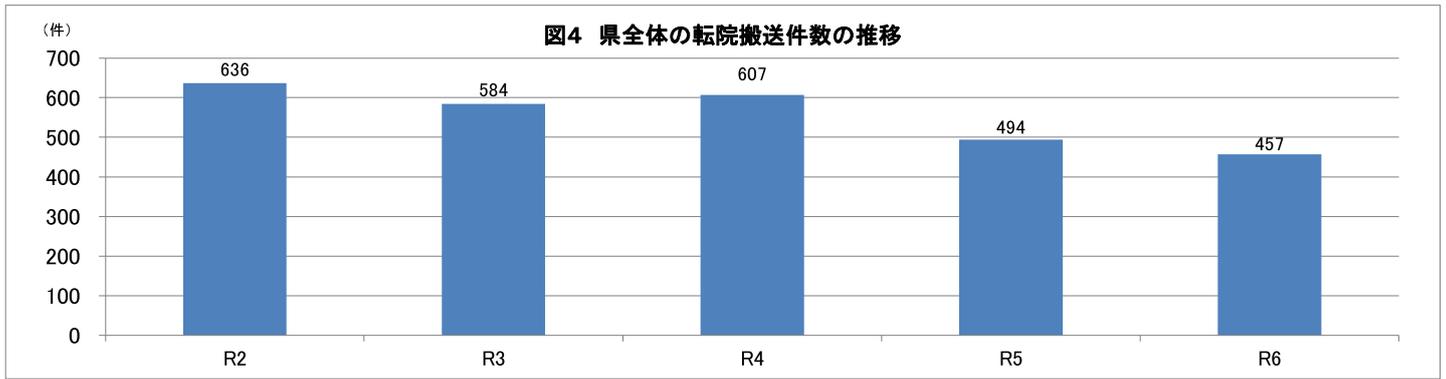


表3 圏域別 転院搬送件数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6
青森	163	113	81	38	94
津軽	185	195	235	165	94
八戸	128	141	112	102	98
西北五	73	48	63	52	69
上十三	56	57	85	109	83
下北	31	30	31	28	19
合計	636	584	607	494	457

5

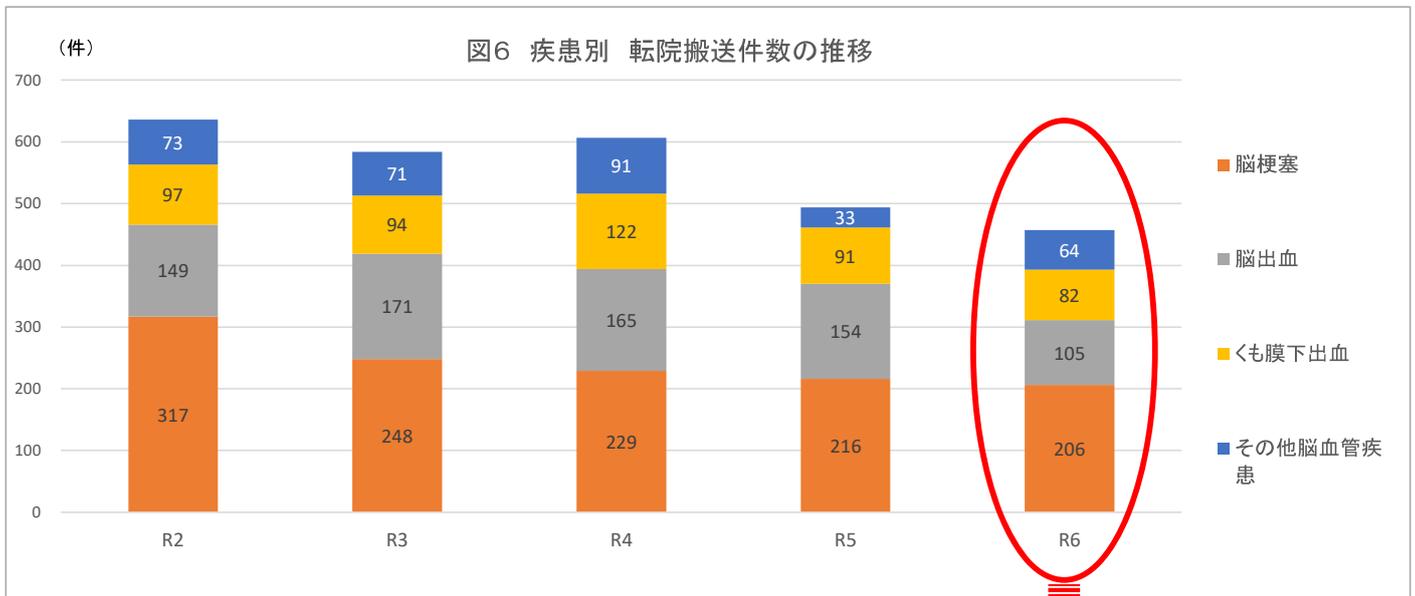
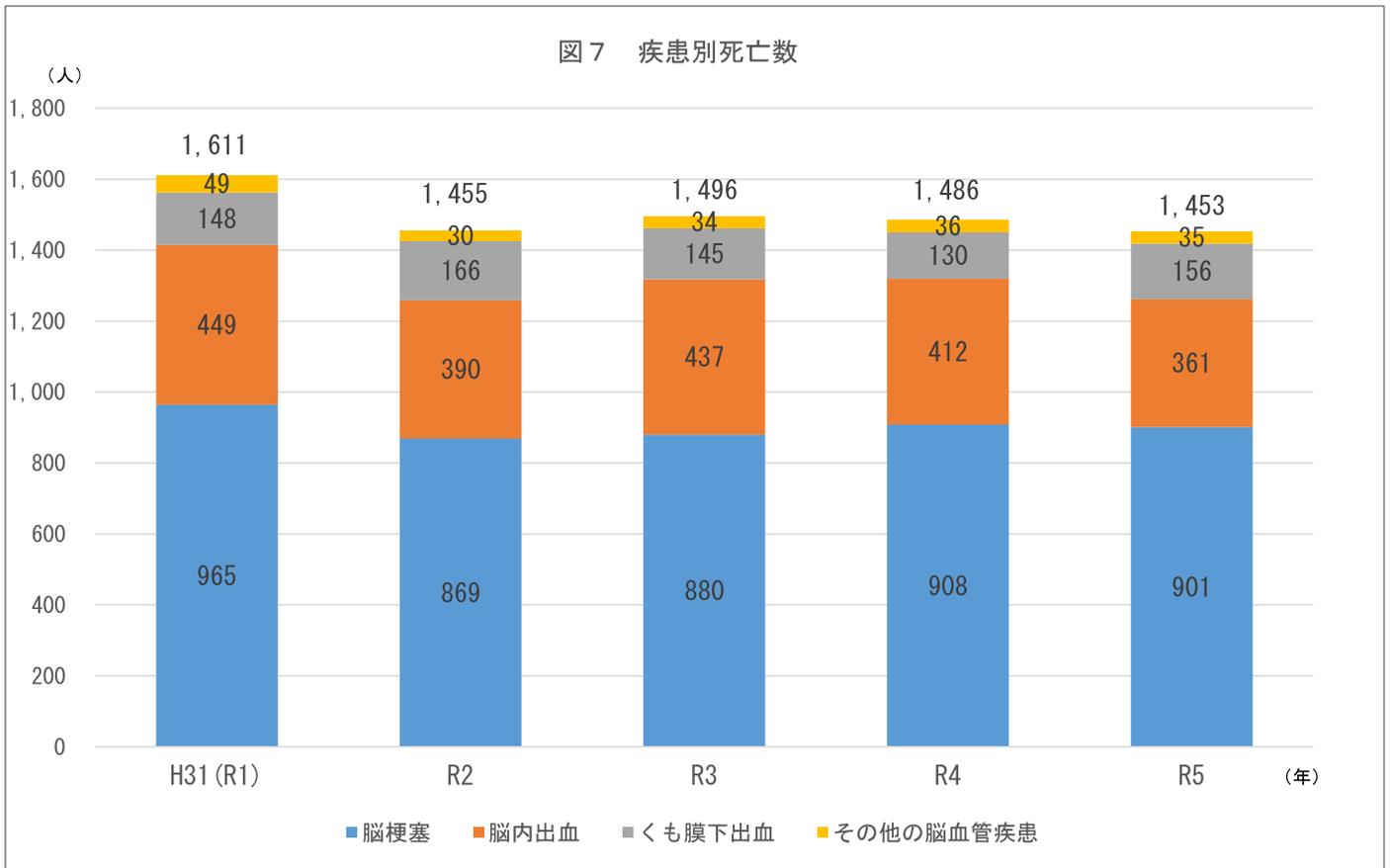


表4 疾患別・圏域別 転院搬送件数(R6)

	青森	津軽	八戸	西北五	上十三	下北
脳梗塞	46	46	46	38	21	9
脳出血	21	20	22	11	26	5
くも膜下出血	15	14	15	9	25	4
その他脳血管疾患	12	14	15	11	11	1
総計	94	94	98	69	83	19

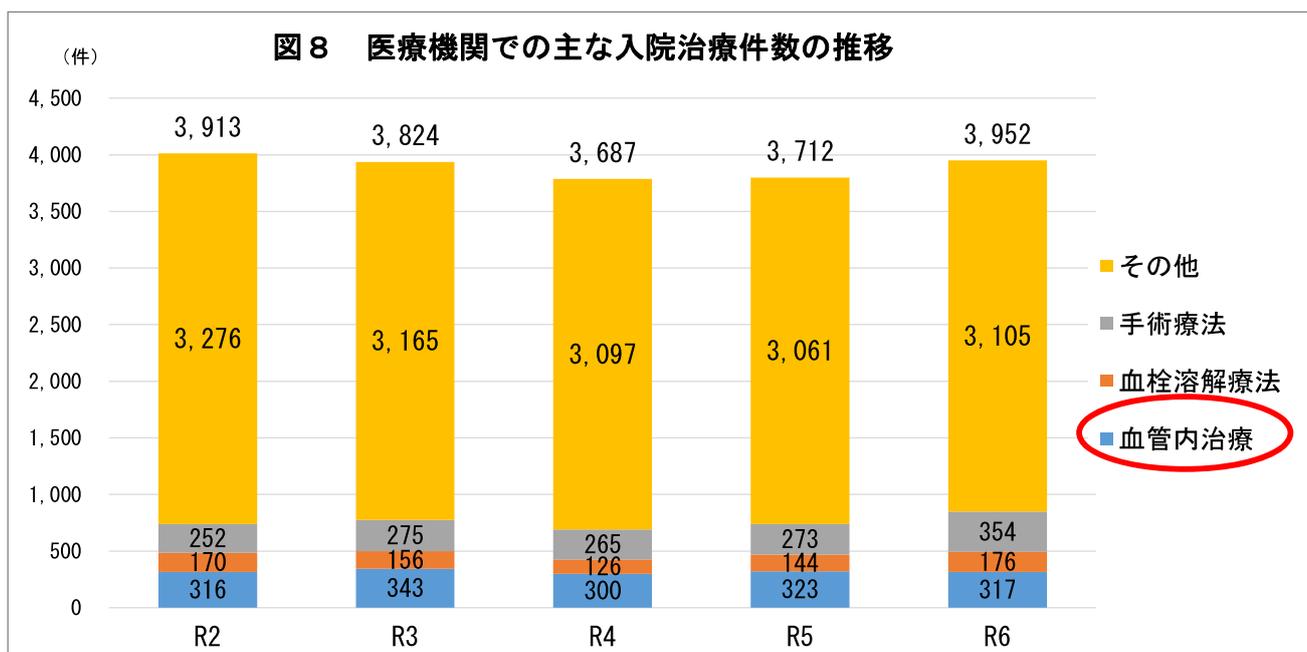
6

【参考】



(出典:人口動態統計)

(3) 急性期脳卒中患者(症状に気付いてから7日以内の入院患者)の入院治療件数と処置内訳



(注) 患者1名につき、治療法を併用したケースがあり、入院治療件数と各治療総数は一致しない。

表5 血管内治療のうちの血栓回収療法件数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6
件数	163	195	193	219	198

9

表6 急性期脳卒中患者(症状に気付いてから7日以内の入院患者)の疾患別治療件数(R6年)

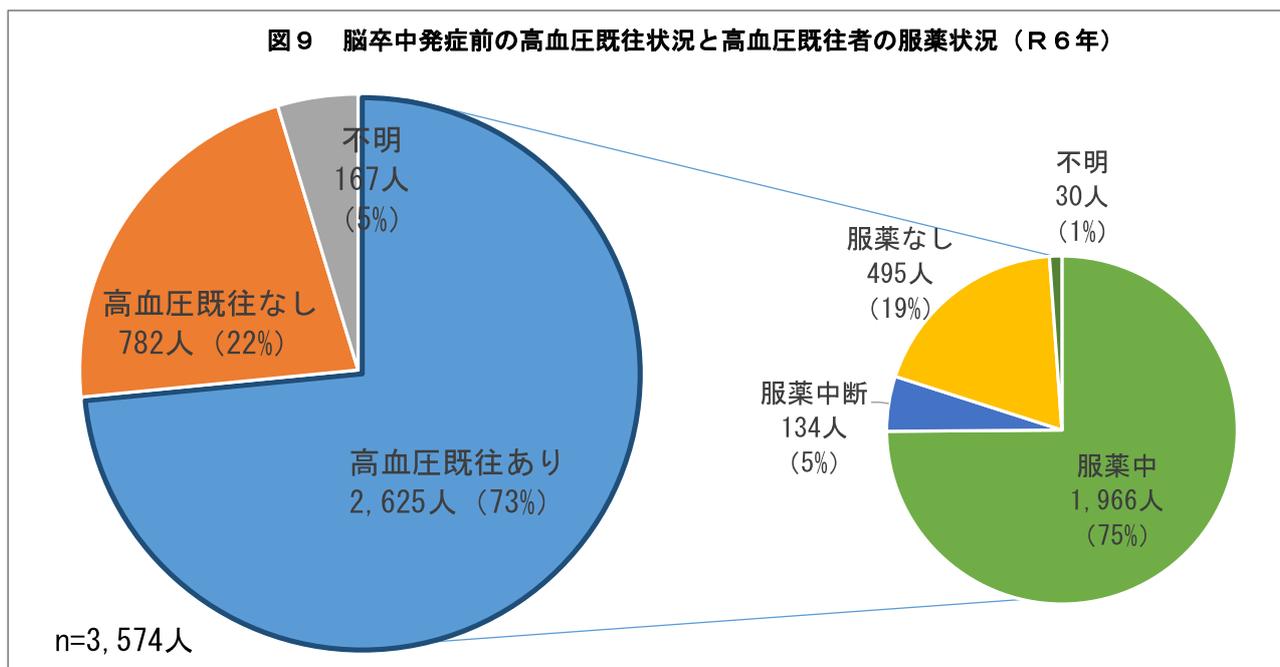
(件)

疾病名	入院治療件数	内訳				
		手術療法	血栓溶解療法	血管内治療	(再掲) 血栓回収療法	その他
一過性脳虚血発作(TIA)	128	1	0	1	1	126
脳梗塞	2,428	53	145	221	191	2,009
(再掲) 心原性脳塞栓症	712	20	85	121	118	486
脳出血	902	140	18	4	1	740
くも膜下出血	310	156	0	80	0	74
その他	184	4	13	11	5	156
総計	3,952	354	176	317	198	3,105

(注) 患者1名につき、治療法を併用したケースがあり、入院治療件数と各治療総数は一致しない。

10

(4) 急性期脳卒中患者(症状に気付いてから7日以内の入院患者)の高血圧既往状況



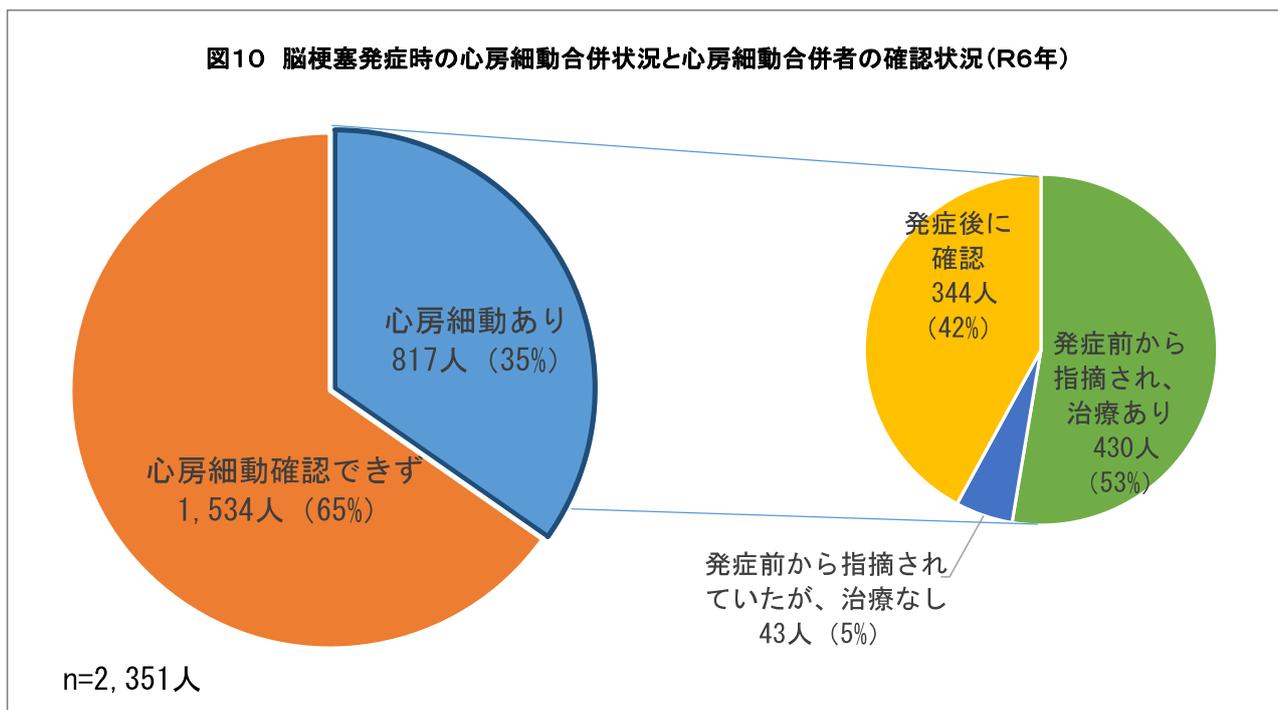
【定義】 高血圧既往あり: 発症前から高血圧症であることが明らかなもの
 服薬中: 発症前から降圧剤を服薬中であることが明らかなもの
 服薬中断: 発症前に降圧剤の処方があるが、発症時点で服薬していないことが明らかなもの
 服薬なし: 発症時点で降圧剤を服薬していないことが明確なもの
 不明: 降圧剤の服薬あり・なしを断定できないもの
 高血圧既往なし: 発症前の血圧が高血圧症に該当していなかったことが明らかなもの
 不明: 発症前に高血圧症であるかどうか分からないもの

表7 脳卒中発症前の高血圧既往状況の推移

(人)

	既往あり	内訳				既往なし	不明	計
		服薬中	服薬中断	服薬なし	不明			
H31 (R1)	2,337	1,652	99	381	205	913	302	3,552
R2	2,427	1,838	108	370	109	1,021	347	3,795
R3	2,469	1,932	98	345	94	922	305	3,696
R4	2,414	1,833	116	345	141	721	327	3,462
R5	2,613	1,988	90	491	44	778	170	3,561
R6	2,625	1,966	134	495	30	782	167	3,574

(5) 脳梗塞発症時の心房細動合併状況



【定義】 心房細動あり: 心電図上、心房細動が確認できたものや現在も治療していることが明らかなもの

- 発症前から指摘あり
 - 治療あり: 抗凝固療法等による治療が明確なもの
 - 治療なし: 指摘されていても未受診等により治療していないもの
- 発症後確認: 発見される機会がなく、初めて明らかになったもの

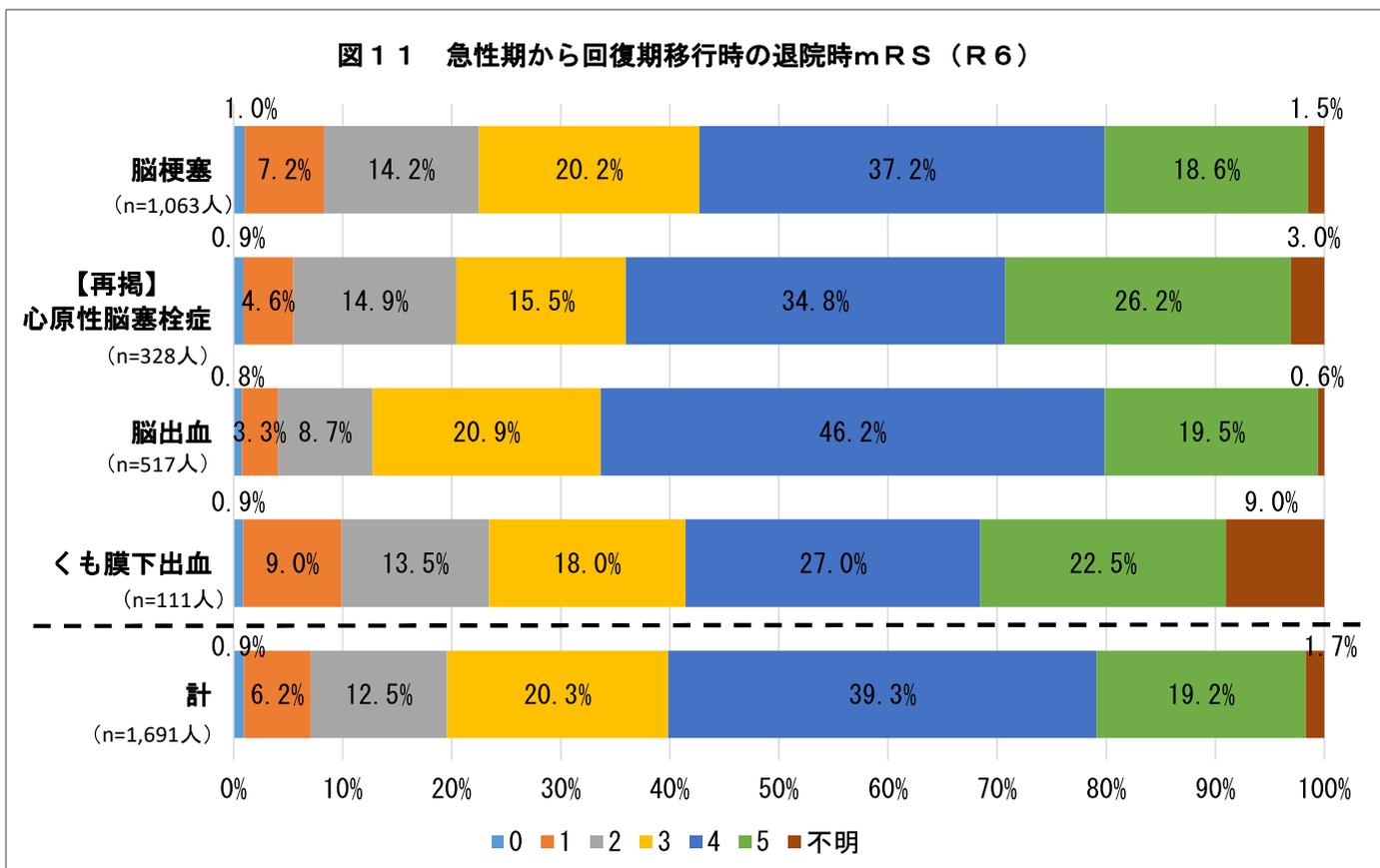
心房細動確認できず: 心電図上、心房細動が不明確なもの

表8 脳梗塞発症時の心房細動合併状況の推移

(人)

	心房細動あり	内訳			心房細動確認できず	計
		発症前から指摘され、治療あり	発症前から指摘されていたが、治療なし	発症後に確認		
H31 (R1)	828	414	63	351	1,539	2,367
R2	816	356	58	402	1,729	2,545
R3	806	405	61	340	1,665	2,471
R4	778	431	44	393	1,593	2,371
R5	848	400	70	378	1,573	2,421
R6	817	430	43	344	1,534	2,351

(6)脳卒中患者の急性期医療機関退院時mRS状況



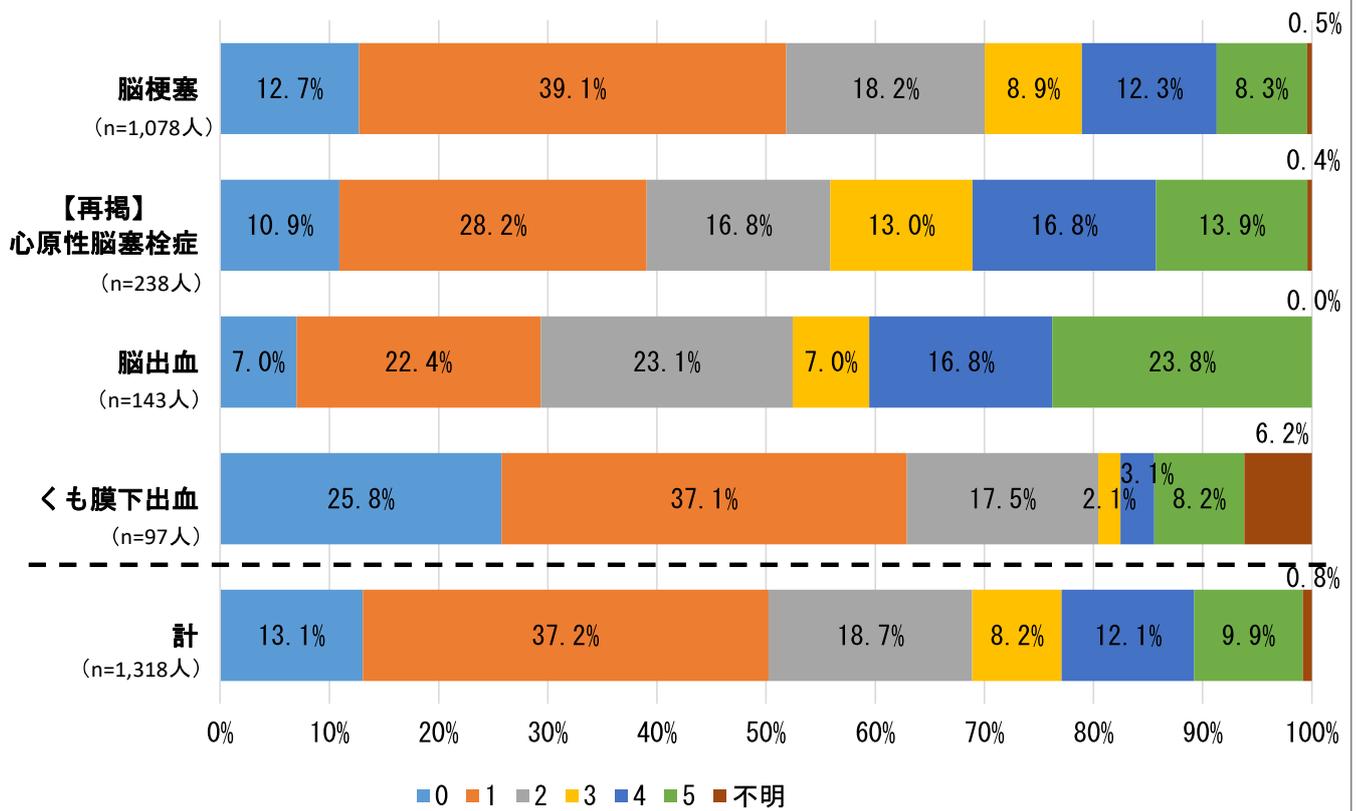
【用語の定義】「急性期から回復期移行時」とは、急性期病棟から回復期病棟への転科、リハビリ病院・老健施設等への転院を指す

表9 急性期から回復期移行時の退院時mRSの推移

(人)

		mRS								計
		0	1	2	3	4	5	不明		
脳梗塞	H31 (R1)	91	234	239	284	335	281	18	1482	
	R2	33	120	168	240	433	291	2	1287	
	R3	49	112	208	211	372	276	7	1235	
	R4	13	77	156	204	377	235	2	1064	
	R5	13	69	149	226	355	226	15	1053	
	R6	11	77	151	215	395	198	16	1063	
【再掲】心原性脳塞栓症	H31 (R1)	27	55	50	83	94	138	2	449	
	R2	9	25	42	52	132	141	1	402	
	R3	14	29	54	58	101	152	4	412	
	R4	3	19	57	66	100	121	2	368	
	R5	2	13	35	67	100	108	3	328	
	R6	3	15	49	51	114	86	10	328	
脳出血	H31 (R1)	16	36	48	89	129	144	1	463	
	R2	2	27	54	74	220	186	0	563	
	R3	10	32	56	82	200	142	1	523	
	R4	4	10	41	47	193	119	0	414	
	R5	3	19	53	88	165	119	8	455	
	R6	4	17	45	108	239	101	3	517	
くも膜下出血	H31 (R1)	25	22	22	20	26	35	1	151	
	R2	11	8	13	14	29	36	0	111	
	R3	11	16	14	18	32	21	8	120	
	R4	11	9	12	18	32	15	0	97	
	R5	3	6	16	22	27	25	22	121	
	R6	1	10	15	20	30	25	10	111	
計	H31 (R1)	132	292	309	393	490	460	20	2096	
	R2	46	155	235	328	682	513	2	1961	
	R3	70	160	278	311	604	439	16	1878	
	R4	28	96	209	269	602	369	2	1575	
	R5	19	94	218	336	547	370	45	1629	
	R6	16	104	211	343	664	324	29	1691	

図12 急性期から維持期移行時の退院時mRS (R6)

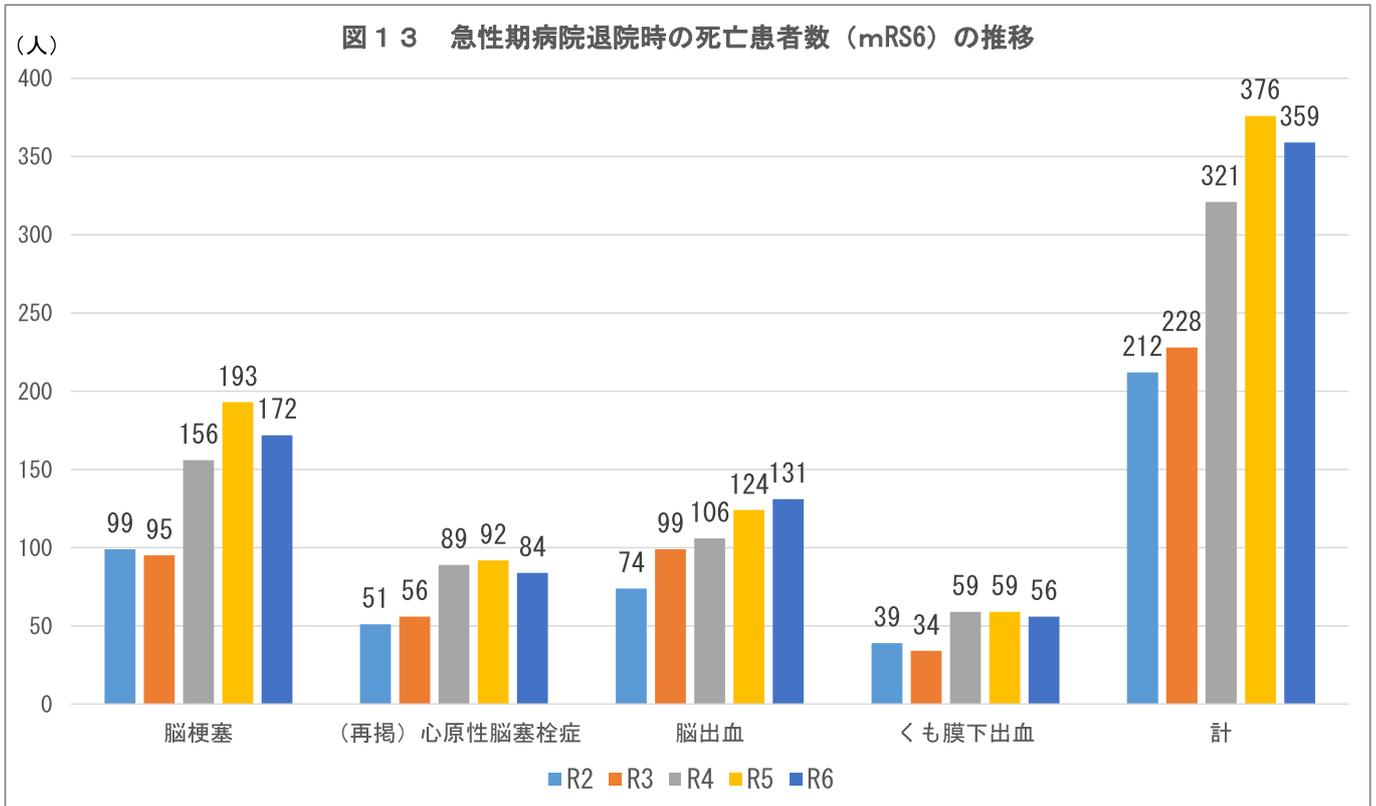


【用語の定義】「急性期から維持期移行時」とは、急性期病棟から自宅や療養施設等への退院を指す

表10 急性期から維持期移行時の退院時mRSの推移

(人)

		mRS								計
		0	1	2	3	4	5	不明		
脳梗塞	H31 (R1)	138	287	146	60	35	40	22	728	
	R2	234	430	251	138	136	78	1	1268	
	R3	271	452	186	101	138	73	4	1225	
	R4	175	463	227	117	141	83	2	1208	
	R5	199	476	242	113	167	72	1	1270	
	R6	137	422	196	96	133	89	5	1078	
【再掲】 心原性 脳塞栓症	H31 (R1)	18	35	17	10	7	16	4	107	
	R2	40	65	50	35	38	30	0	258	
	R3	60	92	42	43	37	29	1	304	
	R4	37	70	51	32	44	41	0	275	
	R5	32	74	49	26	47	29	0	257	
	R6	26	67	40	31	40	33	1	238	
脳出血	H31 (R1)	31	32	27	9	4	14	13	130	
	R2	18	74	28	19	29	32	1	201	
	R3	36	62	21	17	28	32	0	196	
	R4	29	88	46	67	38	27	0	295	
	R5	15	74	40	23	35	20	1	208	
	R6	10	32	33	10	24	34	0	143	
くも膜下出血	H31 (R1)	36	22	8	4	2	5	2	79	
	R2	51	30	22	5	3	3	2	116	
	R3	50	43	11	2	3	6	8	123	
	R4	43	40	8	3	4	4	1	103	
	R5	26	24	9	2	7	4	9	81	
	R6	25	36	17	2	3	8	6	97	
計	H31 (R1)	205	341	181	73	41	59	37	937	
	R2	303	534	301	162	168	113	4	1585	
	R3	357	557	218	120	169	111	12	1544	
	R4	247	591	281	187	183	114	3	1606	
	R5	240	574	291	138	209	96	11	1559	
	R6	172	490	246	108	160	131	11	1318	



(注) R3までとR4からの集計方法が異なる

- ・ ~R3 : 「急性期から回復期移行時」「急性期から維持期移行時」のmRS6の合計を計上
- ・ R4~ : 「急性期病院入院中に死亡した患者 (mRS6)」を計上

【参考】 モディファイド・ランキン・スケール modified Rankin Scale (mRS)

表9 日本版modified Rankin Scale(mRS)判定基準書

modified Rankin Scale		参考にすべき点
0	まったく症候がない	自覚症状および他覚徴候がともにない状態である
1	症候はあっても明らかな障害はない： 日常の勤めや活動は行える	自覚症状および他覚徴候はあるが、発症以前から行っていた仕事や活動に制限はない状態である
2	軽度の障害： 発症以前の活動がすべて行えるわけではないが、自分の身の回りのことは介助なしに行える	発症以前から行っていた仕事や活動に制限はあるが、日常生活は自立している状態である
3	中等度の障害： 何らかの介助を必要とするが、歩行は介助なしに行える	買い物や公共交通機関を利用した外出などには介助*を必要とするが、通常歩行 [†] 、食事、身だしなみの維持、トイレなどには介助*を必要としない状態である
4	中等度から重度の障害： 歩行や身体的要求には介助が必要である	通常歩行 [†] 、食事、身だしなみの維持、トイレなどには介助*を必要とするが、持続的な介護は必要としない状態である
5	重度の障害： 寝たきり、失禁状態、常に介護と見守りを必要とする	常に誰かの介助*を必要とする状態である
6	死亡	

* 介助とは、手助け、言葉による指示および見守りを意味する。

[†] 歩行は主に平地での歩行について判定する。なお、歩行のための補助具(杖、歩行器)の使用は介助には含まない。

(van Swieten JC, Koudstaal PJ, Visser MC, Schouten HJ, van Gijn J. Interobserver agreement for the assessment of handicap in stroke patients. Stroke 1988 ; 19 : 604-607)

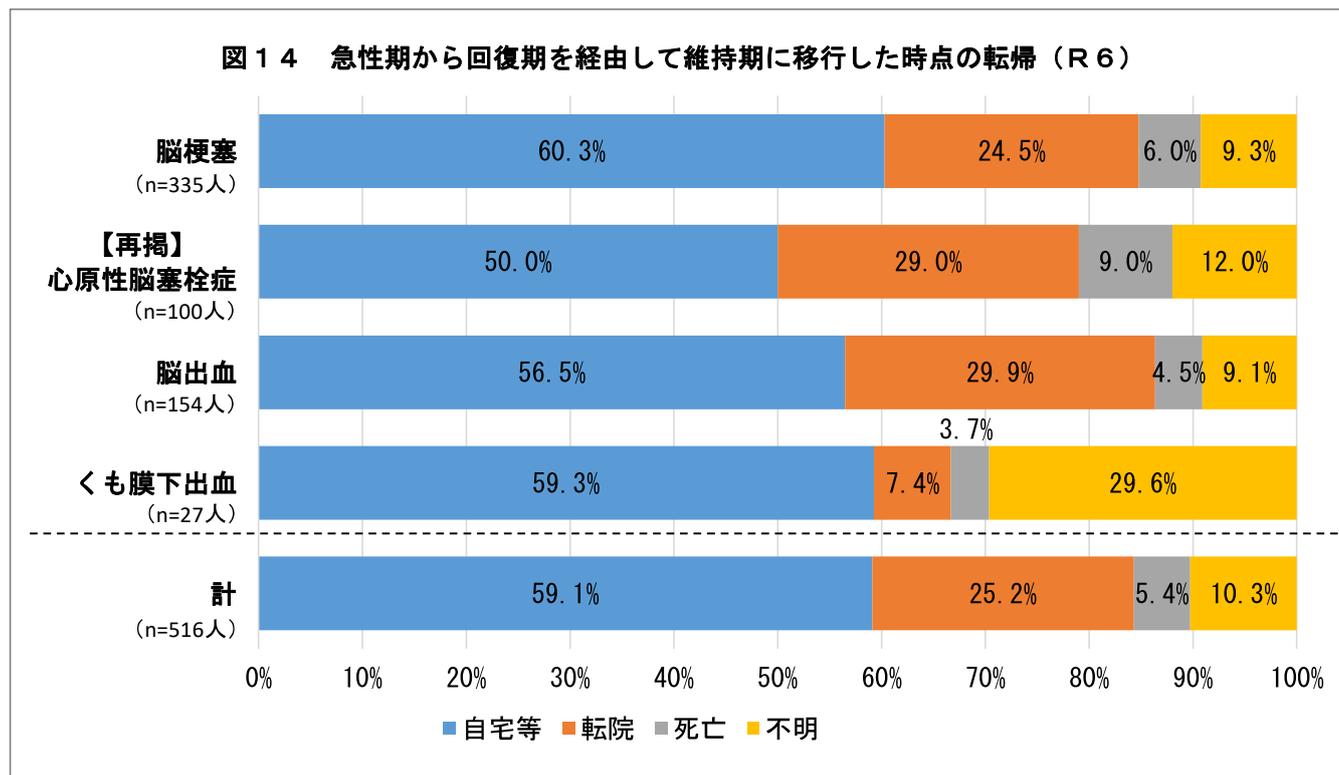
(篠原幸人, 峰松一夫, 天野隆弘, 大橋靖雄 : mRS信頼性研究グループ. modified Rankin Scaleの信頼性に関する研究-日本語版判定基準書および問診表の紹介. 脳卒中 2007 ; 29 : 6-13)

(Shinohara Y, Minematsu K, Amano T, Ohashi Y. Modified Rankin Scale with expanded guidance scheme and interview questionnaire: Interrater agreement and reproducibility of assessment. Cerebrovasc Dis 2006 ; 21 : 271-278)

(脳卒中治療ガイドライン2009より引用)

(7)脳卒中患者の急性期から回復期を經由して維持期に移行した時点での転帰状況

(弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院のみ)



【用語の定義】

- ・「自宅等」には、居宅系介護施設等(介護医療院を含む)、有床診療所(介護サービス提供医療機関に限る)を含む
- ・「転院」とは、上記以外の施設やリハビリ病院へ移ったものを指す

表11 脳卒中患者の急性期から回復期を經由して維持期に移行した時点の転帰の推移

(人)

		自宅等	転院	死亡	不明	計
脳梗塞	H31 (R1)	280	68	16	28	392
	R2	360	130	20	21	531
	R3	267	112	19	70	468
	R4	214	120	24	53	411
	R5	173	101	12	83	369
	R6	202	82	20	31	335
【再掲】 心原性脳塞栓症	H31 (R1)	68	25	6	14	113
	R2	84	52	9	6	151
	R3	65	39	9	23	136
	R4	77	41	14	26	158
	R5	41	42	6	34	123
	R6	50	29	9	12	100
脳出血	H31 (R1)	64	42	2	12	120
	R2	150	51	11	4	216
	R3	102	57	5	40	204
	R4	79	41	2	34	156
	R5	62	42	5	49	158
	R6	87	46	7	14	154
くも膜下出血	H31 (R1)	7	11	2	4	24
	R2	16	7	1	3	27
	R3	28	2	1	12	43
	R4	14	3	0	9	26
	R5	14	2	0	10	26
	R6	16	2	1	8	27
計	H31 (R1)	351	121	20	44	536
	R2	526	188	32	28	774
	R3	397	171	25	122	715
	R4	307	164	26	96	593
	R5	249	145	17	142	553
	R6	305	130	28	53	516